

患者協働の医療の実現に向けて ～医療者・患者がともに学ぶ場 を街につくる～

患医ねっと ペイシェントサロン



ペイシェントサロンの開催風景

要旨

患医ねっとは、患者が主体的になり医療者とともにより自らの病気に取り組む「患者協働の医療」の実現に向けて様々な活動を推進しています。その一つとして、患者たちの学びの場「ペイシェントサロン」があります。

本活動では、2011年12月より毎月1回東京都文京区根津にて「ペイシェントサロン根津」を開催してきました。地域のカフェを活用することで幅広い年齢層かつ多様な背景をもつ地域住民が集い、これまでに40回開催し、参加延べ人数は559人(1回平均13.9人)となっています。参加者の主体性を重視したプログラムが大きな特徴です。講演のように一方的に話を聞くのとは違い、毎回テーマを決めて模造紙を用いたグループワークを実施することで、参加者全員が意見などを出し合い、自ら気づきを得ることができます。さらに2014年度よりこの活動を全国展開するために、ペイシェントサロンファシリテーター養成講座を開講しました。本講座を2014年度に5回開講し、本講座修了者によるペイシェントサロンは全国各地4カ所で開催されるようになりました。

今後も、これらの活動を継続することで、2015年度末までにペイシェントサロンを10カ所程度まで増やすとともに、各拠点のノウハウなどの共有を促進する仕組みづくりを進めていきます。一方で、運営のための人材や資金不足、本来必要とする主体的意識の乏しい患者の参加が増えないなどの課題解決を目指し、早急な運用体制の整備にも取り組んでいきます。

1.はじめに

患医ねっとについて

私たち「患医ねっと」は、「患」者と「医」療者がもっと連携(「ネット」ワーク化)して、「患者協働の医療」を実現させたいと考えている団体です。

医療者が患者のために多職種連携のもと努力し、患者中心の医療を推進している医療現場が多い中、患者の意識は従来のまま変わらず、医師へのお任せや患者側にも起因するコミュニケーション不足などの事例を多く見聞します。

患者自身は、主体的に自分の身体、人生を捉え、それを医療者へ的確に伝え、ともに医療に向かうことが必要です。そのためには医療者と対等な関係性を持ち、患者、医療者のいずれにもやさしい医療現場を実現したいと考えています。

本団体の代表は、二分脊椎症による先天性身体障がい者であり、精巣がんの罹患経験を持つ患者です。そして、

患者の側から医療のよりよい環境を作りたいと考え、本団体を2010年に発足しました。

現在は、患者と医療者の協働できるイベントや、グループワークを取り入れた研修活動、薬局などのコンサルティング活動など多岐にわたる業務を推進しています。

2.ペイシェントサロンの概要

(1)目的

ペイシェントサロンとはペイシェント(患者)がサロン(憩いの場)で気軽に話すことをイメージした活動です。

目的は、「患者協働の医療を実現するために、患者の医療への関わり方について、参加者同士の気づきを得る」ことにあります。

医学、すなわち病気の機序や治療法などについて学ぶのとは違います。

病院をどのように選んだらよいのか?問診における対話を短時間に効率的にするためには?医療費はどう決ま

るのか？薬剤師ができることできないことは何か？など、医療の現状を医療者とともに学ぶことにより、患者は賢い患者になれると考えています。

(2)方法

講演のように一方的に聴くスタイルではレベル差もありますし、疑問をすぐに解決することもできません。また、患者なら誰しもが持つノウハウを引き出して共有することが、大きな学びになります。

そこで、以下の方法で対話します。

- ・毎回テーマを決めて、興味がある方の参加を募ります
- ・模造紙を広げ、8名以下のグループに分けます
- ・患者と医療者は混じるようにグループ分けします
- ・役職名などは一切紹介せず、お互いをあだ名で呼び合います
- ・テーマに関する各自のノウハウや情報、経験などを、付箋に書き出します
- ・順次、書いた付箋を模造紙に貼りつけながら、内容をグループ内で対話します
- ・全付箋を貼り終えた段階で、内容が近いもの同士をまとめていきます
- ・会の終了時に各自が得た知見を書き出し、明日からの行動変容につなげます

3.これまでの実績

(1)ペイシェントサロン根津

ア 開催概要

「ペイシェントサロン根津」は、2011年12月より東京都文京区根津のカフェにて開催しています。概要は以下の通りです。

- ・2015年3月までに40回開催(ほぼ毎月一回)
- ・毎回、平日の19:00~20:45に定例化
- ・参加延べ人数は559人(1回平均13.9人)
- ・医療者と患者の割合はほぼ同数
- ・多くの場合は、グループを2つに分けて、対話します
- ・茶菓を用意し、アットホームな雰囲気を作っています
- ・東京大学教員の支援をいただいております、同校の学生も時々参加します
- ・参加費は原則として1800円。会場費や茶菓代、ゲストの交通費などに充てます

イ 特徴

- ・ゲストによる話題提供がある
- 「ペイシェントサロン根津」は毎回ゲストをお招きし、

10~15分程度の話題提供をしていただき、それを基に対話していますので、より理解が深まり、また知識も得られると考えています。

これまでに招いたゲストの職種の一部を以下に挙げます。このように多岐にわたります。

薬剤師、医師、歯科医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー、社会労務士、言語聴覚士、図書司書、病院評価会社、僧侶、新聞記者、患者会運営スタッフ、医療・介護・福祉系企業・団体スタッフ など 延べ40名。

- ・大学生も参加する

運営スタッフに大学教員がいることから、薬剤師を目指す大学生の参加する機会が多くあります。学生にとって、患者と直に話せることや社会人と対等な関係性の中で対話できるという貴重な経験となっています。

- ・対話の内容は可視化している

参加者の対話により作成された模造紙は、その後、主催者が文章にまとめています。その一部は、インターネットにて公開しています。

ウ これまでの対話のテーマ

これまでに行われた対話のテーマの一部を下記に示します。

このように、医療を取り巻く様々な現状について取り上げてテーマにして、参加者同士がノウハウや情報を提供しつつ、そしてゲストからの知恵を加えて、対話していきます。

- ・救急医療をかしこく使うには？
- ・病院で医療情報を調べる方法とは？
- ・病棟看護師ってどんな仕事をしている？
- ・医師と円滑にコミュニケーションをとるには？
- ・新聞で医療情報を読む際の心構えは？
- ・健康食品やサプリメントを賢く使うには？
- ・医療×僧侶が生み出すものとは？
- ・あなたにとって納得できる医療とは？



ペイシェントサロン根津における対話の様子



模造紙を広げて参加者の意見を集約

(2) ペイシェントサロンファシリテーター養成講座

ア 講座の概要

ペイシェントサロン根津を推進しているなかで、この活動を全国へ展開する可能性を模索していました。そこで、2014年度に前述の東京大学教員の協力を得て、ペイシェントサロン根津におけるノウハウをまとめ、「ペイシェントサロンファシリテーター養成講座」のテキストを作成、希望者には受講していただき、ノウハウを展開しています。

本講座の実績を以下にまとめます。

- ・本講座は、基礎コース、応用コースの2コースを用意しています
- ・2014年度に、基礎コース5回、応用コース1回を開催しました
- ・両コースとも朝から夕方までの一日研修と、別途1回の実習を経て修了となります
- ・基礎コースの参加延べ人数は19名(1回平均3.8人)

イ 講座テキストの内容

作成した講座テキストは、以下の様な内容から構成されています。

ここでは、基礎コースの内容を紹介します。

- ・オープニングガイダンス：講座の目的やペイシェントサロンの実績などの説明を受けます
- ・自己紹介：ペイシェントサロンでは雰囲気作りが重要なので、その手法を取り入れた自己紹介をします
- ・ペイシェントサロン体験：実際にペイシェントサロンを簡易的に体験します
- ・目的の明確化：受講者の思いを可視化して、各自の目的を認識します
- ・ペイシェントサロンの進め方：実際にペイシェントサロンを進めるためのノウハウを体得します
- ・ファシリテーター実習：実際にファシリテーターとして対話の場を創る体験をします
- ・企画準備：ペイシェントサロンを運営するために必要となる企画・準備について学びます

- ・基礎コース認定に向けて：認定を得るための事務的な説明を受けます
- ・運営体制の説明：ペイシェントサロンの体制について説明を受けます
- ・ふりかえり：受講生がこの講座で得た内容を共有します。自身で拠点となりペイシェントサロンを開催する意識を持つことが講座の目標となります



ペイシェントサロンファシリテーター養成講座の様子



ペイシェントサロンファシリテーター応用コース全体写真

4. 今後の活動方針

各地でのペイシェントサロンの活動が広がることを期待して、「本部一各拠点」の体制を早急に整備していく必要があります。

(1) 本部

本部の活動は以下の通りです。

- ・ペイシェントサロンファシリテーター養成講座の開催
- ・ペイシェントサロンファシリテーターや各拠点の活動の支援
- ・会費制の導入による収支バランスの確保
- ・ペイシェントサロンの広報活動



広報活動を兼ねたイベントも開催

(2)各拠点のペイシェントサロン

ア ペイシェントサロン根津

40回をすでに開催しているペイシェントサロン根津は、各拠点の手本となるべき存在であり、今後も毎月一回の開催を継続していきます。

最近、参加人数も10数名を安定的に確保しており、この参加者の中から、自らも開催を考え、ペイシェントサロンファシリテーター養成講座の受講を希望する方が出てくると期待しています。

さらに、ペイシェントサロンファシリテーター養成講座の修了生が、ファシリテーターを体験する場としても機能させていきます。

イ 各地のペイシェントサロン

現在は、「東京都杉並区善福寺」「栃木県宇都宮市」「千葉県千葉市」「愛知県名古屋市」の4拠点が定期的に開催しています。

まずはこの各拠点が安定的に集客でき、地元で必要とされる存在になり、モデルケースとなるように支援していきます。

今後は、2015年中に10拠点程度まで増やしていきたいと考えており、さらに数年に100拠点を目指します。

5.活動推進への課題

活動の推進には課題もいくつかあります。

(1)人材・資金の不足

組織を運営している人材、そしてそのための資金は慢性的に不足しています。

現在は、参加費を充当して運用してきましたが、「本部一各拠点」体制を整備するには、人材と資金の確保は大きな課題となっています。

今回、杉浦地域医療振興賞を受賞させていただいたことは本課題への大きな支援となるものであり、心から感謝申し上げます。

(2)参加希望者への告知の難しさ

現在、各拠点のペイシェントサロンへ参加する方の多くは、各拠点主催者の友人・知人であり、開催の案内にはfacebookを主なツールとして使っています。

よって、電子メール環境に限られている方や、そもそも携帯電話やパソコンに触れない方に対し、告知が難しい状況です。

このように、参加希望者に対してどのように告知をしていくのかは、各拠点の特徴も活かしながら検討が必要です。

(3)参加者のすそ野が広がらない

本来、このような活動を必要としているのは主体性意識の乏しい市民です。このような方々がペイシェントサロンの開催情報を得たとしても、自ら参加するとは考えられません。いかにすれば参加を促せられるのかというアイデアが不足しており、参加者の本来必要とする市民へのすそ野が広がっていません。長期的な視点に立ち、戦略を検討していきます。

6.さいごに

この度は「第4回 杉浦地域医療振興賞」への入賞をいただき、感謝申し上げます。

私たちのような弱小、かつ草の根の活動にとって、今回の受賞は大きな糧であり、そして次のステップに進める財産にもなります。

まだ課題も多い活動ではありますが、これを機に、スタッフ一同がさらに力を合わせ、さらに多くの方々とともに、患者協働の医療の実現に向けて力強い歩みを踏み出したいと考えています。

ありがとうございました。